

日本発達心理学会第 24 回大会公開シンポジウム@明治学院大学

(日本発達心理学会、一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構、日本臨床発達心理士会共催)

心理職の国家資格の展望と課題

-医療・保健、福祉、教育・発達、司法・矯正、産業等の汎用的資格、

“scientist-practitioner”モデル、および心理職間の連携の意義-

ご報告

挨拶

・平成 25 年 3 月 15 日に開催されましたこのシンポジウムには、「心理職の国家資格化を目指す議員連盟」代表の**河村建夫衆議院議員**（元内閣官房長官、元文部科学大臣）が冒頭の挨拶をされました。河村議員は 3 分の予定を 17 分お話され、資格問題の経緯、社会のニーズ、今国会上程をめざすこと、課題としての経過措置などについて触れ、また資格を持った者の生涯教育に資する心理研修センターへの期待などにも触れられました。

・**日本精神科病院協会常務理事の林道彦氏**は精神科七者懇談会の声明が確定したことを報告され、今後の運びに向けて期待を語られました。また心理職は医療における生物主義やエビデンス主義の足りないところを補う役割を期待していると挨拶されました。

・**日本臨床心理士会会長の村瀬嘉代子氏**は挨拶として、必ずしも良質な協調・協力関係にはなかった基礎系と応用系の心理学が、この度、社会に裨益する、かつ日本の未来の心理学、心理支援実践の発展のために、一致協力して心理研修センターを設立することになった。研修、心理職の制度検討、震災支援について、さまざまな心理職が得意分野の特徴を發揮して協力してすすめていきたいとセンター事業について話されました。

・**日本心身医学会理事長の久保千春氏**からは、心理学の関係者がまとまっているこの機会を逃さずに国家資格化を実現するように心身医学会としても努力したいという挨拶がありました。

話題提供

・日本心理臨床学会理事長の鶴光代氏は1963年の心理技術者資格認定機関設立準備会以来の資格問題に関する長い経緯、及び2005年の「2資格1法案」を経て1資格案への統合がなった今回の国家資格「心理師」案を紹介した。国家資格制度の実現までには、乗り越えなければならない諸問題があるが覚悟の上で進みたいと話されました。

・日本LD学会会長の上野一彦氏は、これまでの歴史的説明を受け、三団体（推進連・推進協・日心連）の仕組みと合意形成のあり方を、日心連の資格委員長という立場から、カリキュラムを例に述べた後、心理学に関係する各学会の主な職能資格の全容をモデル図で説明されました。

・日本心理学諸学会連合理事長の子安増生氏は、最初に幼児の描画を例として心理学の基礎と実践の密接な関連性について述べた後、日本心理学諸学会連合における心理師創設の「要望書」および大学院共通カリキュラムの審議経過、ならびに三団体会談から派生した日本心理研修センター設立の趣旨について説明されました。

指定討論

・日本学校心理士会会長の石隈利紀氏は、日心連の教育委員長という立場から、日心連で検討し承認され、三団体拡大会議で確認された「心理職養成カリキュラム」を紹介され、その内容はサイエンティスト・プラクティショナーモデルに基づき、基幹科目（心理学に関する科目、法と倫理）、展開科目（援助理論、アセスメント、援助技法、予防・教育、関連科目）、実践実習である。これまでの心理学や心理支援に関する領域の蓄積が、これからの心理職に貢献できると話されました。

・日本心理臨床学会副理事長の下山晴彦氏は、臨床心理学の発展過程において、当初さまざまな心理療法及び心理学の学派のバラバラに提案され、まとまりのないまま展開されてきた歴史がある。それが、欧米諸国では、Scientist-Practitioner Model、エビデンスベースアプローチ、生物—心理—社会モデルによる議論、検討を経て心理学の体系として構造化されてきている。日本においても、この統合の過程が進みつつあり、今回の国家資格化は、そのような心理学の統合の重要なプロセスとみることができると話されました。

一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構代表理事の本郷一夫氏の開会挨拶から始まり、日本臨床発達心理士会幹事長の長崎勤氏の司会進行により約350名のフロアは熱心に耳を傾け、心理職の国家資格が実現することへの期待が伝わりました。外のコーナーでは国家資格実現の署名が集められました。

なお、幾度か話題が出た「日本心理研修センター」は4月1日に一般財団法人登録され、4月14日に文京区茗荷谷の筑波大学東京キャンパスで設立総会と記念シンポジウムが計画されています。

